

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7666159号
(P7666159)

(45)発行日 令和7年4月22日(2025.4.22)

(24)登録日 令和7年4月14日(2025.4.14)

(51)国際特許分類	F I			
A 6 1 F 13/514 (2006.01)	A 6 1 F	13/514	4 0 0	
A 6 1 F 13/42 (2006.01)	A 6 1 F	13/42		B
A 6 1 F 13/494 (2006.01)	A 6 1 F	13/494	1 1 1	
A 6 1 F 13/533 (2006.01)	A 6 1 F	13/533	1 0 0	

請求項の数 6 (全11頁)

(21)出願番号	特願2021-103208(P2021-103208)	(73)特許権者	000122298
(22)出願日	令和3年6月22日(2021.6.22)		王子ホールディングス株式会社
(65)公開番号	特開2022-41882(P2022-41882A)		東京都中央区銀座4丁目7番5号
(43)公開日	令和4年3月11日(2022.3.11)	(74)代理人	110001243
審査請求日	令和6年6月4日(2024.6.4)		弁理士法人谷・阿部特許事務所
(31)優先権主張番号	特願2020-145640(P2020-145640)	(72)発明者	木村 笙子
(32)優先日	令和2年8月31日(2020.8.31)		東京都中央区銀座五丁目12番8号 王
(33)優先権主張国・地域又は機関	日本国(JP)	(72)発明者	黒原 健志
			東京都中央区銀座五丁目12番8号 王
			子ネピア株式会社内
		審査官	▲桑▼原 恭雄

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 吸収性物品

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

腹側から股下を介して背側に亘る長手方向と、前記長手方向と直交する幅方向と、液透過性のトップシートと、液不透過性のバックシートと、前記トップシートと前記バックシートとの間に介在する吸収体と、前記バックシートの非肌面側に接合されるカバーシートと、前記吸収体の一对の側縁部の前記長手方向に沿って設けられる一对のサイドシートと、吸収性物品を構成するシート部材に形成される皺と重なる領域のみ又は一部を含む領域の範囲に表示が形成された表示領域と、を備え、

前記表示領域は、前記皺によって情報の一部又は全部が表示されず、前記皺が伸ばされることによって全ての情報が表示される第1表示領域と、該第1表示領域と重ならない領域とする範囲に常時情報が表示されている第2表示領域とを含んで成り、
前記第1表示領域と前記第2表示領域には、互いに異なった情報が表示され、前記第1表示領域には、着用させる前に不要な情報が表示され、前記第2表示領域には、着用させる前に必要な情報が表示されていることを特徴とする吸収性物品。

【請求項2】

前記吸収体には、肌面側から非肌面側又は非肌面側から肌面側に向かって圧搾溝が形成され、前記圧搾溝によって前記皺が形成され、前記情報の一部又は全部が隠れることを特徴とする請求項1に記載の吸収性物品。

【請求項3】

前記第1表示領域は、前記圧搾溝によって生じる前記皺と重なる領域とする範囲に表示

が形成され、前記情報の一部又は全部が隠れる領域であることを特徴とする請求項 2 に記載の吸収性物品。

【請求項 4】

前記吸収性物品は、複数の前記シート部材に挟まれるように伸長状態で配置・固定されることでギャザーを形成する伸縮部材をさらに備え、前記第 1 表示領域は、前記伸縮部材の収縮に伴い形成される前記皺と重なる領域のみ又は一部を含む領域とする範囲に表示が形成された領域であることを特徴とする請求項 1 に記載の吸収性物品。

【請求項 5】

前記表示領域が形成される前記シート部材は、前記バックシートであることを特徴とする請求項 1 ～ 4 のいずれか一項に記載の吸収性物品。

10

【請求項 6】

前記第 1 表示領域は、液体によって濡れると呈色するインジケータの少なくとも一部が隠れる領域であることを特徴とする請求項 1 ～ 5 のいずれか一項に記載の吸収性物品。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、吸収性物品に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、排出された体液（以下、単に「体液」とも言う）を吸収体に誘導して吸収させる使い捨ておむつ（以下、単に「おむつ」とも言う）等の吸収性物品が広く知られている。

20

【0003】

おむつには、例えば、パッケージへの収容、吸収体に圧搾溝、着用者の肌にフィットするためのギャザーなどによる皺ができる一方、おむつには、サイズ、模様などの情報が印刷され得る。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

おむつの使用に際して、当該皺によって、おむつに印刷された情報が見えにくくなる可能性がある。このため、おむつに生じる皺を把握し、おむつに印刷された情報を視認しやすくする構造が必要である。

30

【0005】

本発明の目的は、おむつの情報を使用者に視認しやすくすることができる吸収性物品を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明の一形態は、腹側から股下を介して背側に亘る長手方向と、長手方向と直交する幅方向と、液透過性のトップシートと、液不透過性のバックシートと、トップシートとバックシートとの間に介在する吸収体と、バックシートの非肌面側に接合されるカバースシートと、吸収体の一对の側縁部の長手方向に沿って設けられる一对のサイドシートと、吸収性物品を構成するシート部材に形成される皺と重なる領域のみ又は一部を含む領域の範囲に表示が形成された表示領域と、を備え、表示領域は、皺によって情報の一部又は全部が表示されず、皺が伸ばされることによって全ての情報が表示されることを特徴とするものである。

40

【発明の効果】

【0007】

本発明によれば、使用者に対して、おむつの情報を適宜把握することができ、着用前に必要な情報、着用後に必要となる情報を得ることが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【0008】

50

【図１】本発明の一実施形態に係るおむつの一例の外観において、正面側から見た斜視図である。

【図２】図１に示すおむつの後面側から見た斜視図である。

【図３】図１および図２に示すおむつの分解斜視図である。

【図４】本発明の一実施形態に係る、伸長状態のおむつをトップシート側から見た平面図である。

【図５】本発明の一実施形態に係る、非伸長状態のおむつをカバーシート側から見た平面図である。

【発明を実施するための形態】

【０００９】

本発明による吸収性物品の実施形態について、図１から図６を参照しながら詳細に説明する。ただし、本発明は本実施形態の態様に限定されるものではない。なお、本発明の特許請求の範囲、明細書または図面において、長手方向は、吸収性物品の着用者の腹側から股下を介して背側に亘る方向とする。また、幅方向は、長手方向と直交する方向とする。

【００１０】

まず、本発明を展開型使い捨ておむつに応用した実施形態を以下に説明する。

【００１１】

<おむつの主な構成>

図１は、本発明の一実施形態に係るおむつの一例の外観において、正面側から見た斜視図である。また、図２は、図１に示すおむつの一例の外観において、後面側から見た斜視図である。図１および図２に示すように、本実施形態に係るおむつ１０は、展開型使い捨ておむつであり、前身頃領域１０Ｆと、後身頃領域１０Ｒと、これら前身頃領域１０Ｆおよび後身頃領域１０Ｒをつなぐ股下領域１０Ｃとを有する。また、着用時に前身頃領域１０Ｆと後身頃領域１０Ｒとで着用者のウエストの部分を取り囲むウエスト周り開口部１０Ｗが形成されている。同様に、前身頃領域１０Ｆおよび後身頃領域１０Ｒの下端部と股下領域１０Ｃとで着用者の両脚の太股部分を取り囲む左右一対の脚周り開口部１０Ｌが形成されている。後身頃領域１０Ｒ側のウエスト周り開口部１０Ｗの中央には、着用時にウエスト周りのフィット性を向上させるために弾性シート等の伸縮部材が幅方向（図２の左右方向）に配され、ウエストギャザーが形成される。本実施形態では、後身頃領域１０Ｒには、後身頃領域１０Ｒ側のウエスト周り開口部１０Ｗの股下方向、かつ、伸縮部材が非伸長状態においてギャザー皺１０１ａ、１０２ａが形成される位置を含む領域に表示領域が形成される。表示領域には、第１表示領域１０１および第２表示領域１０２が含まれる（後述する図５および図６を参照）。なお、詳細については後述する。

【００１２】

着用時に前身頃領域１０Ｆは、着用者の腹側に位置し、後身頃領域１０Ｒは着用者の背側に位置する。そして、着用時に股下領域１０Ｃは、着用者の股下を覆い、左右一対の脚周り開口部１０Ｌに、着用者の脚がそれぞれ通された形となる。したがって、脚周り開口部１０Ｌは、着用者の両脚の付け根から太股あたりのいずれかに位置することとなる。

【００１３】

仮想線Ｐは、おむつ中央部において腹側から背側に向かって、股下部分を通して延びるものである。具体的には、仮想線Ｐは、例えば、おむつのウエスト側を上、股下側を下として定義すると、おむつ表面に沿って、かつ上下方向に延びると共に、股下部分を経由して、背側においても上下方向に延びるものである。

【００１４】

カバーシート１１の背側の両端部に一対の第１係合部材であるファスニングテープ１０Ａと、ファスニングテープ１０Ａと係合し、カバーシート１１の腹側の端辺と平行に延在している第２係合部材であるフロントパッチ１０Ｂを更に備えている。

【００１５】

本実施形態では、おむつ１０の外側に位置するカバーシート１１の後身頃領域１０Ｒの左右両端縁部には、着用時に前身頃領域１０Ｆの左右両端縁部に重ね合わせてこれらをつ

10

20

30

40

50

なぎ、脚周り開口部 10L を形成し得る左右一対のファスニングテープ 10A が接着されている。ファスニングテープ 10A およびフロントパッチシート 10B は、例えば、メカニカルファスナーなどの構造であり、このファスニングテープ 10A は、前身頃領域 10F のカバーシート 11 上に接着されたフロントパッチシート 10B に対して繰り返し剥離可能に接合される。

【0016】

また、後述する第 2 表示領域 102 は、フロントパッチシート 10B の延在方向と略平行な線を含む模様または図形を表示し、フロントパッチシート 10B よりも股下側に位置する。これにより、フロントパッチシート 10B の位置を目立たせることができる。また、使用者がフロントパッチシート 10B の位置を容易に認識でき、ファスニングテープ 10A とフロントパッチシート 10B を係合しやすくすることができる。

10

【0017】

さらに、本実施形態では、前身頃領域 10F には、フロントパッチシート 10B よりも股下側に位置し、フロントパッチシート 10B の下辺と略平行であり、第 2 表示領域 102 が形成される。この第 2 表示領域 102 には、直線や曲線などを含む模様または図形が形成される。第 2 表示領域 102 がフロントパッチシート 10B よりも股下側、かつ、フロントパッチシート 10B と略平行に位置しているため、使用者は、着用時にフロントパッチシート 10B の位置を認識しやすくすることができる。

【0018】

図 3 は、図 1 および図 2 に示すおむつ 10 の模式的な分解斜視図であり、図 4 は、本発明の一実施形態に係る、伸長状態のおむつ 10 をトップシート 14 側から見た平面図である。図 3 の吸収体 13 および図 4 のおむつ 10 については、説明の便宜上、部分的に破断した状態をそれぞれ示している。

20

【0019】

図 3 に示すように、おむつ 10 は、複数のシート部材に挟まれるように伸長状態で配置・固定されることでギャザーを形成する伸縮部材を備えている。本実施形態の複数のシート部材は、例えば、液透過性のトップシート 14 と、液不透過性のバックシート 12 と、トップシート 14 とバックシート 12 との間に介在する吸収体 13 と、バックシート 12 の非肌面側に接合されるカバーシート 11 と、吸収体 13 の一対の側縁部の長手方向に沿って設けられる一対のサイドシート 15 と、を備えている。また、本実施形態のおむつ 10 は、外側から順に、良好な手触りを得るために薄い不織布にて形成されるカバーシート 11 と、バックシート 12 と、吸収体 13 と、トップシート 14 と、一対のサイドシート 15 と、を重ねた積層構造を有しているものである。さらに、後述する本実施形態の吸収性物品であるおむつ 10 を構成するトップシート 14 およびバックシート 12 およびカバーシート 11 およびサイドシート 15 のうち 2 つのシートに挟まれるように伸長状態で配置・固定されることでギャザーを形成する伸縮部材を備えている。後述する第 1 表示領域は、伸縮部材の伸縮に伴い形成される皺と重なる領域のみ又は一部を含む領域とする範囲に表示が形成された領域である。これにより、使用者は、おむつを非伸長状態とすることで、第 1 表示領域の情報の表示を視認することができなくなり、おむつを伸長状態とすることで、第 1 表示領域の情報を表示し、視認することができる。

30

40

【0020】

吸収体 13 には、肌面側から非肌面側又は非肌面側から肌面側に向かって圧搾溝が形成され、圧搾溝によって皺が形成され、情報の一部または全部が隠れる。本実施形態では、図 4 に示すように、吸収体 13 には、肌面側から非肌面側に向かって圧縮して形成された複数の凹部 20（以下、圧搾溝とも言う）が形成される。すなわち、圧搾溝 20 一部において圧搾溝 20 が複数形成されている。図 4 に示すように、圧搾溝 20 が形成されることで、圧搾溝 20 において折れ曲がりやすくなって、おむつ 10 のフィット感を向上させることが可能となる。また、圧搾溝 20 が連続的に形成されることで、空気が腹側または背側に通り抜けることができるようになり、通気性を確保することが可能となる。加えて、排出された体液を、迅速に拡散させて、吸収体 13 を全体的に使用して効率よく吸収体 1

50

3に吸収させることが可能となる。

【0021】

なお、本発明において、複数の圧搾溝20とは、各々が物理的に連続していない複数の個別の圧搾溝20、に加えて、複数の構成単位としての圧搾溝20が重なりあって形成される物理的に連続したものをも含む概念である。前記構成単位としては、直線、およびその途中に屈曲(角)を有しない連続した曲線などが挙げられるがこれらに限られない。また、本実施形態において、吸収体には、複数の圧搾溝等を設けない構成としてもよい。

【0022】

例えば、トップシート14と吸収体13とが接する面には接着剤が塗布され、圧搾溝20は、吸収体13とトップシート14の積層体を圧搾することで設けられる。この圧搾は、例えば、エンボスロールによって行われる。これにより、圧搾溝20の底面から壁面にわたる圧搾溝20全体において、トップシート14と吸収体13が咬み合い、一体的に接合される。この構成により、トップシート14と吸収体13とを一体的に形成するので、トップシート14と吸収体13がしっかりと接合しトップシート14が剥がれにくく、排尿後で吸収体13が膨らんだ場合でも、トップシート14が溝に沿った状態になり、溝が維持される。

10

【0023】

図2および図3に戻り、カバーシート11の股下領域10Cの左右両側には、それぞれ脚周り開口部10Lとなる一对の切欠き部11Nが形成されている。カバーシート11と一对のサイドシート15との間には、脚周りギャザー(レグギャザー)を形成するための一对の糸ゴム16がそれぞれ伸長状態で接着されている。本実施形態では、股下領域10Cの左右両側には、伸縮部材である糸ゴム16が非伸長状態においてギャザー皺101aが形成される位置を含む領域に第1表示領域101が形成される(後述する図5参照)。なお、詳細については後述する。

20

【0024】

トップシート14は、液透過性を有する不織布などで構成される。バックシート12は、カバーシート11に接合され、吸収体13は、このバックシート12とトップシート14との間に配置され、この吸収体13を介してトップシート14がバックシート12に接合される。また、バックシート12のうち、後身頃領域10Rの上端部に対応する領域には、バックシート12の幅方向に沿って延び、着用者に対してウエスト周りに適度な着用感を与えるための弾性シート10Dが接合されている。なお、本発明では、おむつ10の長手方向に縦縞に圧搾溝を形成してもよい。さらに、トップシート14の肌面側には、第2表示領域が弾性シート10Dの周辺とフロントパッチシート10Bの周辺に形成されている。詳細については後述する。

30

【0025】

本実施形態のバックシート12は、吸収体13と接する側に、図1および図2において破線で示されるように、体液によって濡れると呈色するインジケータ10Eが設けられている。インジケータ10Eは、長手方向に沿って股下領域10Cから前身頃領域10Fおよび後身頃領域10Rの一部にかけて、バックシート12と吸収体13に挟まれた位置に設けられている。本実施形態では、インジケータ10Eは、吸収体13に接する側にバックシート12の長手方向に帯状に2本設けられている。

40

【0026】

また、インジケータ10Eは、水分を検出した際、色を変化させるなどし、吸収性物品の吸収体が十分に体液を吸収した時に、それを外部から視認できるようにするために、吸収性物品上に塗工された帯状の部分である。これは、水分と反応する材料や、水分と触れた後のpHの変化などによって反応する材料などからなるものである。

【0027】

さらに、呈色とは、無色から有色に変わる「発色」は勿論のこと、色が変わる「変色」、有色から無色に変わる「消色」も含まれる。

【0028】

50

トップシート１４の下に位置する本実施形態の吸収体１３は、主にパルプとＳＡＰとからなる吸収性コア１７を、ティッシュや不織布等の被覆部材（コアラップ）１８によって被覆したものである。吸収性コア１７を被覆部材１８により包むことで形成される継ぎ目は、例えば、図３に示すように、吸収体１３の上面であって長手方向に延びるように形成される。本実施形態の吸収体１３は、前身頃、股下、後身頃に亘るように、細長い形状をしている。なお、本実施形態に係るおむつ１０では、被覆部材１８で包まれた吸収体１３を用いているが、本発明に係る吸収性物品は、被覆部材１８で包まれていない吸収性コア１７を用いてもよい。

【００２９】

本実施形態では、吸収体１３には複数の圧搾溝２０が形成され、複数の圧搾溝２０は全体として格子模様を形成している。具体的には、複数の圧搾溝２０は、図３および図４に示すように、吸収体１３の表面に斜め格子状に延びて形成されている。仮想線Ｐの吸収体１３上での位置は、図４に示すように、前身頃部分上端から後身頃部分下端に向かって延びるものとなっており、仮想線Ｐは、吸収体１３が細長い形状である場合、長手方向に延びるものである。複数の圧搾溝２０はそれぞれ、この仮想線Ｐに対して左右に傾斜して延びている。本実施形態では、吸収体１３には複数の圧搾溝２０が全体として格子模様を形成しているとしたが、これに限らず、吸収体１３には、長手方向に縦縞に複数の圧搾溝２０が形成されているようにしてもよい。これにより、体液を長手方向に分散させることができる。本実施形態では、吸収体１３に形成された格子模様のおむつ１０の非肌面側の皺を避けるために、吸収体１３の複数の圧搾溝２０で囲まれた領域に情報などを表示するようにしてもよい。これにより、使用者に対して情報などを視認しやすくすることができる。

【００３０】

本実施形態におけるトップシート１４の幅方向の左右両側縁部には、立体ギャザーを形成する疎水性の一对のサイドシート１５が備えられている。一对のサイドシート１５は、着用時に吸収体１３の左右両側縁部に沿って起立し、排出された体液の横漏れを防止するための部材である。一对のサイドシート１５の外側端縁部には、カバーシート１１の一对の切欠き部１１Ｎと同様の形状に切欠き部１５Ｎが形成されている。一对のサイドシート１５のそれぞれには、その内側端縁部を吸収体１３側に折り返して把持させる形で立体ギャザー伸縮部材としての糸ゴム１９が伸長状態で配置される。一对のサイドシート１５は、糸ゴム１９が収縮した際に、着用者の肌当接方向に向かって立ち上がる。立体ギャザーは従来の使い捨ておむつに用いられている公知の構成を採用することができる。例えば、撥水性シートの層間に伸長状態の立体ギャザー伸縮部材を挟み込んで固定することにより、形成することができる。

【００３１】

< 第１表示領域および第２表示領域 >

図５は、本発明の一実施形態に係る、非伸長状態のおむつ１０をカバーシート１１側から見た平面図であり、非伸長状態で皺をそれぞれ含む第１表示領域１０１および第２表示領域１０２の一例を説明するための図である。

【００３２】

第１表示領域１０１は、着用させる前に不要な情報が表示されている。本実施形態では、第１表示領域は、例えば、おむつのサイズ情報「Ｍ」、ブランド情報やメーカー情報「ＡＢＣＤ」を表示する。これにより、使用者は、着用者が着用しているおむつのサイズ、ブランドおよびメーカー名を把握することができ、購入する際の情報を得ることができる。なお、本実施形態では、サイズ情報などの情報は、バックシートの非肌面側に印刷し、表示するようにしているが、これに限らず、カバーシートなどの外観から認識可能なシートに印刷するようにしてもよい。

【００３３】

第１表示領域１０１は、皺によって情報の一部または全部が表示されず、皺が延ばされることによって全ての情報が表示される。本実施形態では、第１表示領域１０１は、圧搾溝によって生じる皺または窪みと重なる領域とする範囲に表示が形成され、メーカー情報

10

20

30

40

50

「ＡＢＣＤ」の一部または全部が隠れる領域である。非伸長状態では、第１表示領域１０１は、バックシート１２に形成されており、吸収体１３に形成された圧搾溝２０によって、メーカー情報「ＡＢＣＤ」の一部が隠れている。これにより、着用者におむつを着用させる前には、使用者にとって不要な情報を視認させないことができる。一方、使用者が本実施形態では、第１表示領域１０１は、バックシート１２に形成するようにしたが、これに限られることなく、吸収体１３に形成される圧搾溝２０が、非肌面側から肌面側に向かって圧搾溝２０が形成される場合には、バックシート１２に第１表示領域１０１を設けると、第１表示領域１０１が圧搾溝２０に落ち込み、認識することが困難となるため、カバーシート１１に形成するようにしてもよい。

【００３４】

10

また、本実施形態では、第１表示領域１０１は、圧搾溝によって生じる皺または窪みと重なる領域とする範囲に表示が形成され、体液によって濡れると呈色するインジケータ１０Ｅの一部または全部が隠れる領域である。非伸長状態では、第１表示領域１０１は、バックシート１２に形成されており、吸収体１３に形成された圧搾溝２０によって、インジケータ１０Ｅの一部が隠れている。これにより、着用者におむつを着用させる前には、使用者にとって不要な情報を視認させないことができる。

【００３５】

本実施形態では、インジケータ１０Ｅの幅は、圧搾溝によって生じる皺または窪みによって一部または全部が隠れる幅であればよく、好ましくは、一部が隠れる幅である。これにより、インジケータ１０Ｅは、空気中の水分と接触する機会を減少することから、使用前に呈色してしまうことを防止する効果を高くすることができる。

20

【００３６】

なお、本実施形態では、インジケータ１０Ｅを２本設けているが、これに限られることなく、１本でもよく、または３本以上でもよい。

【００３７】

さらに、本実施形態では、第１表示領域１０１は、伸縮部材である系ゴム１６および弾性シート１０Ｄの収縮に伴い形成されるギャザー皺１０１ａと重なる領域に表示を形成する。第１表示領域１０１は、例えば、非肌面側のウエスト周りに形成されるギャザーや脚周りに形成されるギャザーなどによる皺を含む領域およびそれらの周辺の領域に表示を形成する。本実施形態では、図５に示すように、ウエスト周りギャザーの中央に第１表示領域１０１を形成する。このとき、第１表示領域１０１にあるサイズ情報「Ｍ」の表示は、一部が見えるが、使用者が表示として認識することができない程度の表示である。

30

【００３８】

そして、第１表示領域１０１は、伸縮部材が伸長状態のときに表示される。すなわち、第１表示領域１０１は、図２に示すように、伸縮部材である系ゴム１６および弾性シート１０Ｄが伸長状態のときに表示される。これにより、第１表示領域１０１にあるサイズ情報「Ｍ」の表示は、使用者に対して認識させることができる。なお、本実施形態では、第１表示領域１０１の表示は、伸縮部材が収縮しているときに表示の一部が見えるとしたが、これに限らず、伸縮部材が収縮しているときには、完全に表示を見えないようにしてもよい。

40

【００３９】

第２表示領域１０２には、着用させる前に必要な情報が表示されている。本実施形態では、第２表示領域は、おむつの向きの情報「まえ」や「うしろ」、「ひだり」や「みぎ」、テープの位置情報を示すように模様や図形などを表示する。これにより、使用者は、着用者に着用させる際に、おむつの前後を把握することができる。なお、本実施形態では、おむつの前後の情報などの情報は、第１表示領域と同様にバックシートに印刷し、表示するようにしているが、これに限らず、着用させる際に、認識可能なシートであればよく、カバーシートなどに印刷するようにしてもよい。

【００４０】

本実施形態では、第２表示領域１０２は、第１表示領域と重ならない領域とする範囲に

50

表示が形成された領域であり、フロントパッチシート１０Ｂの下辺と略平行な線を含む模様または図形を表示する。これにより、フロントパッチシート１０Ｂの位置を使用者に視認しやすくすることができ、着用時にファスニングテープ１０Ａをフロントパッチシート１０Ｂに容易に係合しやすくすることができる。なお、本実施形態では、第２表示領域１０２は、模様または図形としたが、文字のみや文字と図形などの組み合わせを表示するようにしてもよい。これにより、第２表示領域１０２の表示は、フロントパッチシート１０Ｂの位置を使用者に対して視認しやすくすることができる。

【００４１】

また、本実施形態では、第２表示領域１０２にフロントパッチシート１０Ｂの下辺と略平行な線を含む模様または図形を表示するとしたが、これに限らず、文字などを形成するようにしてもよい。そして、上述のように、非伸長状態のおむつにおいて、第２表示領域１０２では、表示の一部が見えていることによって、使用者に何かの表示があると把握させ、使用者が折り皺１０２ａを伸長状態にして表示を認識しようとする。これにより、第２表示領域１０２に表示される模様が表示され、使用者に対してフロントパッチシート１０Ｂの位置を視認しやすくすることができる。なお、本実施形態では、第２表示領域１０２に模様を表示したが、これに限らず、着用させる際に必要な情報であればよく、おむつの前後の情報「まえ」や「うしろ」の表示でもよい。

【００４２】

表示領域は、パッケージの収容に伴い形成される折り皺と重なる領域に表示を形成する。おむつ１０は、折りたたまれてパッケージに収容されることが一般的であり、第１表示領域１０１および第２表示領域１０２は、この折りたたまれる際に形成される折り皺を含む領域に表示を形成する。また、第１表示領域１０１および第２表示領域１０２は、折り皺が伸びるときに表示される。これにより、第１表示領域１０１および第２表示領域にある表示は、使用者に対して認識させることができる。

【００４３】

このように、使用者に対して、おむつの情報を適宜把握することができ、着用後に必要となる情報を得ることが可能となる。

【００４４】

<その他>

本発明は、上述した実施形態や、随所に述べた変形例に限られることなく、本発明の技術的思想から逸脱しない範囲で、適宜の変更や変形が可能である。

【００４５】

例えば、上記実施形態またはその変形例に係るおむつの構造は、上述したような展開型に限定されるわけではなく、特許請求の範囲に規定された構成を含む吸収性物品でありさえすれば、どのような構成であってもよい。例えば、パンツ型の使い捨ておむつや吸収パッド等であっても本発明を適用可能である。

【００４６】

加えて、上記実施形態またはその変形例は、乳幼児向けのおむつに限らず、成人向けのおむつなど、各種吸収性物品に適用可能である。

【００４７】

また、上記実施形態では、バックシート１２の肌面側にインジケータ１０Ｅが設けられているが、これに限られることはなく、吸収体１３の非肌面側にインジケータ１０Ｅが設けてもよい。

【符号の説明】

【００４８】

- １０ おむつ（吸収性物品）
- １０Ａ ファスニングテープ
- １０Ｂ フロントパッチシート
- １０Ｆ 前身頃領域
- １０Ｒ 後身頃領域

10

20

30

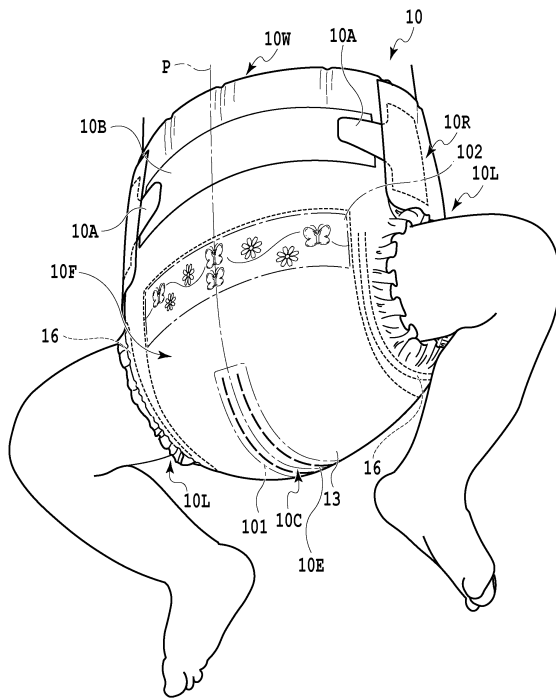
40

50

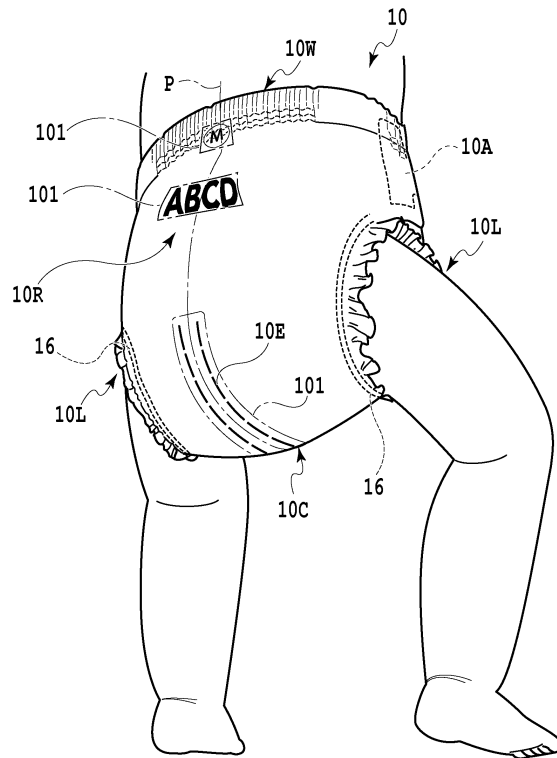
- 10C 股下領域
- 10W ウエスト周り開口部
- 10L 脚周り開口部
- 10E インジケータ
- 11 カバーシート
- 12 バックシート
- 13 吸収体
- 14 トップシート
- 15 サイドシート
- 16 糸ゴム（伸縮部材）
- 20 複数の圧搾溝
- 10D 弾性シート（伸縮部材）
- 101 第1表示領域
- 101a ギャザー皺
- 102 第2表示領域
- 102a 折り皺

【図面】

【図1】



【図2】



10

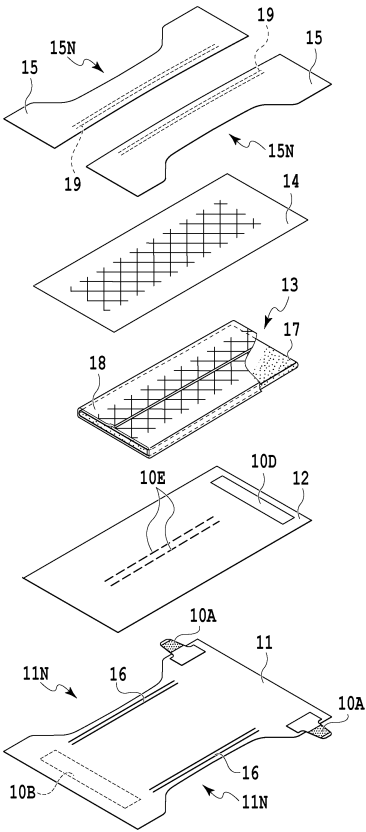
20

30

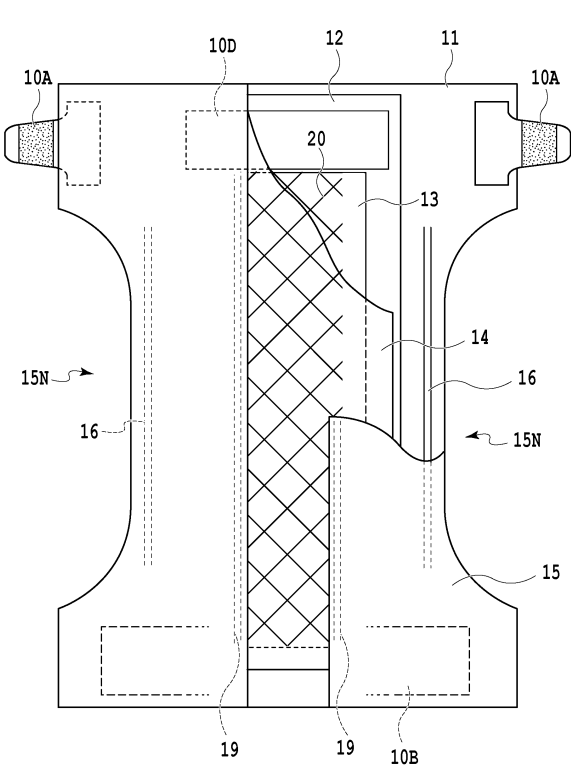
40

50

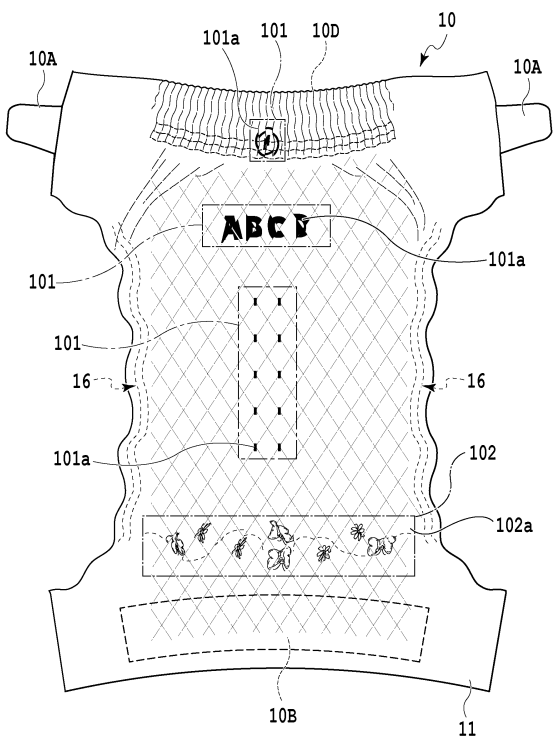
【図 3】



【図 4】



【図 5】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開 2 0 1 6 - 2 2 1 2 5 5 (J P , A)
 特開 2 0 2 0 - 0 0 0 7 5 8 (J P , A)
 特開 2 0 1 4 - 1 0 4 1 4 4 (J P , A)
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
- A 6 1 F 1 3 / 5 1 4
 A 6 1 F 1 3 / 4 2
 A 6 1 F 1 3 / 4 9 4
 A 6 1 F 1 3 / 5 3 3